全国のＮＩＣＵにおける早期介入、フォローアップ体制等に関する調査

（分担研究：ハイリスク児の地域ケアのあり方に関する研究）
分担研究者：前川喜平[1)]
研究協力者：庄司順一[2)]、恒次欽也[3)]、秦野悦子[4)]

要約：全国のＮＩＣＵを対象に、入院中および退院後の早期介入とフォローアップ体制等に関する調査を行った。149施設のうち、有効回答は76施設から得られた（有効回答率51.0%）。ＮＩＣＵに２年以上入院していた児を有していたのは36.8%の施設、出生最小体重が500ｇ未満であった児を有していたのは34.2%の施設であった。すべての施設で親のＮＩＣＵ入室を認めており、そのほとんどは母親だけでなく、父親の入室も認めていた。入院中の早期介入（ＥＩ）については、実施している20.6%、プログラムの作成を検討している30.9%などであった。退院後のフォローアップはすべての施設で実施されていた。しかし、早期介入やフォローアップを行う上でスタッフの不足と経済的な問題が指摘された。

見出し語：ＮＩＣＵ、早期介入、フォローアップ、親の面会

研究目的：

ＮＩＣＵ入院中から、早期介入をへて、地域ケアへとつなげていくシステムモデルについて検討するための基礎資料を得るために、全国のＮＩＣＵを対象とした調査を行い、ＮＩＣＵ入院中および退院後の早期介入とフォローアップ体制等の現状と課題に関する検討を行った。

研究方法：

調査票「早期介入のためのＮＩＣＵに関する調査」を作成し、全国のＮＩＣＵに郵送法による調査を行った。対象となったＮＩＣＵは「新生児医療連絡会」の名簿から、診療所を除いて、149施設を選んだ。

結果および考察：

調査票は149通発送し、80通の回答を得た（回収率53.7%）。このうち、４通はＮＩＣＵをもたない施設であったため、有効回答76通（有効回答率51.0%）を分析の対象とした。

以下に主な結果を述べる。

1)ＮＩＣＵへの最長入院期間は10年(１名)であり、以下７年(２名)、６年(１名)、５年(２名)などとなっており、２年以上入院していた児を有していたのは36.8%の施設であった。

生産であった児のうち、最小体重は212ｇ（21日間生存）であり、ついで377ｇであった。出生最小体重が500ｇ未満であった児を有していたのは34.2%の施設であった。

2)すべての施設で親のＮＩＣＵ入室を認めており、そのほとんどは母親だけでなく、父親の入室も認めていた。面会時間は決まっている施設が多かったが(90.8%)、必要に応じて柔軟に対応しているようであった。

ＮＩＣＵにおける早期介入（ＥＩ）については、とくに行っていない36.8%、プログラムの作成を検討している30.9%、実施している20.6%などであった。

3)退院後のフォローアップについては、きちんとマニュアル化はしていないが、おおよその方式がある74.0%、フォローアップの方式が決まっていて、マニュアルが作成されている15.1%などとなっていた。フォローアップを行っていない施設はなかった。

フォローアップは、ＮＩＣＵと小児科が合同で行っている50.0%、ＮＩＣＵ独自に行っている36.4%、

1)東京慈恵会医科大学，2)日本総合愛育研究所，3)愛知教育大学，4)川村学園女子大学

小児科に任せている6.1%であった。

4)早期介入のための親子のグループづくりに関しては、とくに組織づくりは考えていないが約半数であった(47.7%)が、親子のグループの必要性から組織づくりを検討中である20.0%、親子のグループを積極的につくり、活動している16.9%、自然発生的に親のグループが親たちによりつくられた6.2%であった。

5)ＮＩＣＵの現状を踏まえて、現在の検討課題、問題点等についての自由記述を求めたところ、半数以上が何らかの記載をしていた。それらは、医師が不足、医師・看護婦以外のスタッフがいないなど、スタッフの不足を指摘する内容がもっとも多く、次いで、経済的な問題（保険の点数が安すぎるなど）が指摘された。早期介入やフォローアップを実施するには心理、栄養士、ＰＴなどの専門家が必要であり、こうしたスタッフの充実が求められる。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:全国のNICUを対象に、入院中および退院後の早期介入とフォローアップ体制等に関する調査を行った。149施設のうち、有効回答は76施設から得られた(有効回答率51.0%)。NICUに2年以上入院していた児を有していたのは36.8%の施設、出生最小体重が500 g未満であった児を有していたのは 34.2%の施設であった。すべての施設で親の NICU 入室を認めており、そのほとんどは母親だけでなく、父親の入室も認めていた。入院中の早期介入(EI)については、実施している 20.6%、プログラムの作成を検討している 30.9%などであった。退院後のフォローアップはすべての施設で実施されていた。しかし、早期介入やフォローアップを行う上でスタッフの不足と経済的な問題が指摘された。